

Daito toDay



No. 8

発行日 2019年7月15日 〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
発行 大東文化大学 学長室 po@ic.daito.ac.jp
編集 河内利治 http://www.daito.ac.jp/president_blog/



上段左から、上遠野経済学部長・高橋学務局長・河内副学長
下段左から、茂住氏・門脇学長

新元号「令和」と「大東文化」

大東文化大学学長 門脇廣文

はじめに

本年5月1日に、元号が「令和」となり、新しい時代が始まりました。そこで「令和」という元号と「大東文化」について少し考えてみました。「令和」という元号の持つ新しくて古い意味と大東文化大学の「建学の精神」とは深く関係しています。そのことについて数回にわたって述べたいと思います。

国書『萬葉集』の中の「序文」から採られたことについて

1

まずは、皆さんの良く知るところだと思いますが、「令和」という元号がこれまでのように中国の古典に拠るものではなく、日本の古典である『萬葉集』の文章から採ったものだという点について、再度、確認しておきたいと思えます。

日本の元号では「令和」は248番目のものとなりますが、日本の古典、所謂「国書」に拠るものとしては初めてのものです。それまでの元号は、全て中国の古典に拠るものでした。

前の元号の「平成」は『史記』五帝本紀・帝舜の「内平外成」（内平かに外成る）、また『書経（偽古文尚書）』大禹謨の「地平天成」（地平かに天成る）から、「昭和」は『書経』堯典の「百姓昭明、協和萬邦」（百姓（ひやくせい）昭明にして、萬邦（ばんぼう）を協和す）から、「大正」は『易経』象伝・臨卦の「大亨以正、天之道也」（大いに亨（とほ）りて以て正しきは、天の道なり）から、「明治」は『易経』説卦伝の「聖人南面而聴天下、嚮明而治」（聖人南面して天下を聴き、明に嚮（むか）ひて治む）から採られたものでした。それ以前の元号も全て中国の古典に拠るものでした。しかし、「令和」は国書『萬葉集』に拠るもので、その意味では画期的な元号ということになります。

さて、これも皆さん既にご存知のことだと思いますが、『萬葉集』のどのような文章から採られたものなのか、ここでもう一度見ておきたいと思えます。

『萬葉集』は、日本に現存する最古の和歌集ですから、「『萬葉集』に拠るものだ」と言うと、『萬葉集』に収められた「和歌」の中の言葉から採られたように思われがちですが、「和歌」から採られたものではありません。「令和」は「梅の花の歌三十二首」の前に添えられた「序文」から採られたもので、中国古代の書記言語、所謂「漢文」で書かれたものなのです。実は、このことが本学の「建学の精神」と深く関わっているのです。この文章の目的はそのことについて述べることにありますが、先を急ぐことなく、『萬葉集』の周辺のことを少しずつ確認しながら歩を進めていきたいと思います。

さて、『萬葉集』の「梅の花の歌三十二首」の前に添えられた「序文」ですが、それは既に国民の周知する所となっている次のような文章です。ただ、これは「序文」の冒頭の部分であって全文ではありません。

天平二年正月十三日、萃于帥老之宅、申宴会成。于時、初春令月、氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香。

これを訓読すると次のようになります。

天平二年正月十三日、帥（そち）の老の宅に萃（あつ）まりて宴会を申（ひら）く。時に初春の令月にして、
氣淑（よ）く風和（やは）らぎ、梅は鏡前の粉を披（ひら）き、蘭は珮後の香を薫（かを）らす。

この文章は、「天平二年（西暦730年）正月十三日、大宰府の長官大伴旅人の邸宅に集まって宴会を開いた。時はまさに何事をするにもよい初春のめでたい月、気運もよく風もなごやかで、梅はあたかも鏡の前の美女が装う白粉のように花を開き、蘭は身に纏ったお香のように良い香りを放っている」というようなことを意味しています。

この文章の中の「初春令月、氣淑風和（初春の令月にして、氣淑く風和らぐ）」の「令月」の「令」と「風和」の「和」を組み合わせると新元号「令和」が作られたということです。

今後、「漢文は中国古代の書記言語」「文字を持たなかった昔の日本」「萬葉仮名」「序文の基になった中国の古典」「三層構造の日本文化」「大東文化という名称」「建学の精神と令和」などについて述べていきます。

(つづく)

「DAITO VISION 2023 + 10」策定進捗状況について

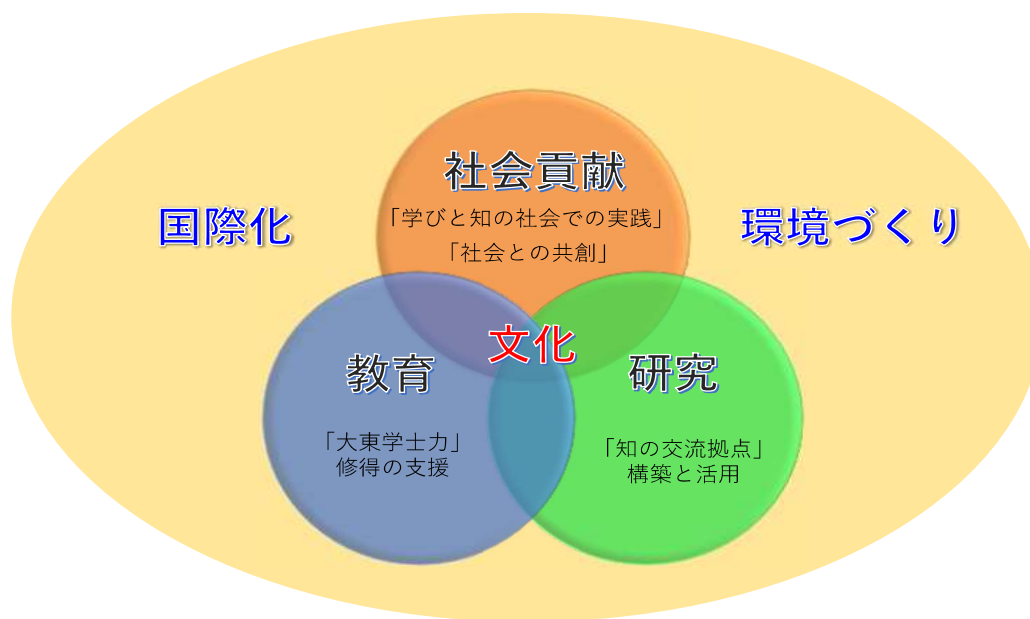
このほど「百周年記念事業準備委員会」（6月19日）において「100周年+10ブランドプロジェクト経過報告」が承認され、ミッションは「文化で社会をつなぐ大学」が採択され、併せて将来像（ビジョン）〈変革課題〉も「視野を広げ、価値観を磨く、「地域・領域・時代を超えた多彩な出会い」を生み出す文化の研究・交流拠点へ（= CROSSING+）」が採択されました。

「DAITO VISION 2023 + 10」では、上記のミッションとこの将来像（ビジョン）をもとに、事業ドメインの確立と拡張を検討しています。これは、「DAITO VISION 2023」に掲げられている「創立百周年に向けた6つのヴィジョン」を検証し、平成30年11月26日中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」、10年後の予測不可能な時代における持続可能な開発目標（SDGs）、人間中心の社会（Society5.0）等を見据えて構想しています。

2

大東文化大学将来基本計画 DAITO VISION 2023	
6 つ の ウ イ シ ヨ ン に 向 け た	1 主体的な学びにより、大東学士力を育てる「教育の大東」を実現する
	2 自主・参加・共同による学生生活を支援する
	3 「開かれた知の共同体」をつくり、大東文化らしい高度な研究を創造する
	4 国際的な学術・教育のネットワークの拠点となり、世界に向けて発信する
	5 「学術の中心」として地域と連携・共同し、社会の発展に貢献する
	6 人権と自由を尊重し、公正な大学運営を行い、社会に信頼される組織となる

概念図（試作段階）



「DAITO VISION 2023」の「6つのヴィジョン」を、「DAITO VISION 2023 + 10」事業ドメインとして次のように構想しました。

「教育」・「研究」・「社会貢献」の3つのドメインをコアドメイン、この活動を支える「環境づくり（財政・施設設備・組織）」とこの活動全てに関わる「国際化」を共通ドメインとして確立する方向で構想しています。「6つのヴィジョン」の1. 教育の大東と2. 学生生活支援を「教育」:「大東学士力」修得の支援、3. 知の共同体と4. 国際ネットワークを「研究」:「知の交流拠点」構築と活用、5. 地域連携を「社会貢献」:「学びと知の社会での実践」・「社会との共創」として構想しています。3つのコアドメイン「教育」・「研究」・「社会貢献」は相互関係にあり、2つの共通ドメイン「環境づくり」と「国際化」は、3つのコアドメインを横断する共通ドメインとして構想しました。

全志願者総数

	全志願者数	2016 年度比
2016 年度	18,263 人	
2017 年度	24,002 人	131%
2018 年度	29,066 人	159%
2019 年度	27,596 人	151%

本学志願者のボリュームゾーン高校ランク

3 教科入試	高校ランク			ランク 合計
	準進学校	中堅校①	中堅校②	
2017 年度	18%	28%	40%	86%
2018 年度	21%	27%	39%	87%
2019 年度	30%	30%	23%	83%

実志願者数

	実志願者数	2016 年度比
2016 年度	8921 人	
2017 年度	10,009 人	112%
2018 年度	11,872 人	133%
2019 年度	11,648 人	130%

本学独自の進学説明会参加高校

	参加校	前年度比
2017 年度	149 校	
2018 年度	181 校	+ 32 校
2019 年度	210 校	+ 29 校

(6 月開催板橋校舎多目的ホール)

2019 年度入試は、一般入試・推薦入試合わせた志願者数が 27,596 人となりました。昨年と比較すると 1,470 人の減少（2018 年度志願者数 29,066 人）ですが、昨年に新設された学部学科へ志願者が集まった反動によるものと分析しています。また、入学定員管理の厳格化により、上位校の受け皿となり、合格者を絞り込んだことによって難易度・偏差値が上昇しました。それを厳しく受け取った受験生が、本学への出願に慎重になり、出願を回避したものと思われます。

一方で、志願者のレベルは上昇しています。以前は主に中堅校からの志願者で占めていましたが、近年、進学校からの志願者が増えている傾向にあります。

2019 年度入試より、センター試験利用入試（前期）を出願期間で分割したセンター試験利用入試（前期 前出願型）と（後出願型）、英検などの資格・スコアと事前課題論文、調査書のみで合否判定を行う英語外部試験活用総合評価型入試を新たに設けました。それぞれ 2021 年度から全国的に行われる大学入試改革を鑑みたもので、他の大規模大学には見られない大胆な入試改革と、外部調査会社からも評価されました。センター試験利用入試（前期 後出願型）の志願者は 1,127 人で、4 科目型を中心にしたことで、国公立受験者の併願者より支持を得ました。英語外部試験活用総合評価型入試は多くの英検 2 級相当の学力をもった入学者を受け入れることができました。

しかしながら入学者の確保において、2019 年度入試では大変な困難を窮めました。定員厳格化の影響を受け、他大学が合格者数の絞り込みを行う一方で、3 月下旬に大量の追加合格者を発表したことにより、本学から辞退者が例年に比べ倍増しました。2020 年度入試に向け、大きな課題です。

2020 年度入試が、大学入試改革前の最後の入試となります。高大接続改革という大きな流れの中で、様々な変化が発生しているさなかではありますが、受験生に寄り添う大学入試になるよう、綿密な入試分析に基づいた入試改革を進めて参ります。

(教学 IR 委員会委員 岡崎悟大)



大東文化大学への補助金

1992 年 (平成 4 年) の 10 億 9500 万円以来、26 年ぶりに 2018 年 (平成 30 年) の 10 億 3000 万円と再び 10 億円を越えました。

3

一般補助金

	補助金額	前年度比
2016 年度	5 億 5600 万円	
2017 年度	8 億 0760 万円	+ 2 億 3160 万円
2018 年度	8 億 1000 万円	+ 240 万円

2018 年度の補助金 10,3 億円	
一般補助金	特別補助金
	私立大学等改革総合支援事業
	私立大学研究ブランディング事業

特別補助金

	補助金額	前年度比
2016 年度	1 億 3900 万円	
2017 年度	1 億 6700 万円	+ 2800 万円
2018 年度	2 億 2000 万円	+ 5300 万円

① 私立大学等改革総合支援事業

タイプ 4	グローバル展開	5 年間で 4 回目
タイプ 5	プラットフォーム形成	昨年度から開始

② 私立大学研究ブランディング事業

採択ランク A	申請 157 大学 採択 20 大学
3 年計画	初年度補助金 4,400 万円 + 2 年分

「私立大学研究ブランディング事業」平成30年度の進捗状況

事業名 漢学・書道の学際的研究拠点の形成による「東洋人の"道"」研究教育の推進

平成30年度の事業成果

【研究事業成果】

①書道学科の創設20周年及び書道研究所の創設50周年に向けて、本学教員の書作品を、本学所蔵および成田山書道美術館所蔵品から選定し、目録などを作成することができた。②「経営学」と「道」に関するテーマについて、官と民の立場から講演会を実施し、研究の基盤となる知見を得ることができた。／「くらしと経営を支える税」（国税庁板橋税務署長）・「消費税に係る財政と社会保障」（税理士）③書道動作を光学式モーションキャプチャシステム、そして生理学的応答を携帯型心拍系により測定し、書道動作と生理学的応答の関係を明らかにすることができた。

【ブランディング】

①プレスリリースの定期配信、ニューズレターの発行、保護者会やオープンキャンパスでの周知などを通して多くのステークホルダーに認識してもらうための取り組みを行ってきた。②研究ブランディング特設WEBサイト <https://www.daito.ac.jp/branding/> を開設した。③大学新聞に関係する記事を掲載した。④在学生に向けて漢学と書道、自校史などの"道"と"書"の関連科目（「Daito BASIS」）を、2019年度入学生を対象に「推奨科目」として指定した。⑤書道を通じた国際交流事業として、国立台湾藝術大学（台湾）とワークショップおよび協働事業等について基本合意を得ることができた。

関西学院大学の取り組みについて～村田学長に聞く大学教育改革～

4

村田 治 先生（関西学院大学学長）プロフィール

1955年5月24日／東京都生まれ

1985年3月 関西学院大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得退学。

学位は、経済学博士。専攻は、マクロ経済学、景気循環論。

1989年関西学院大学経済学部助教授を経て、1996年教授。2014年より関西学院大学学長。

2017年より第9期・第10期中央教育審議会委員。

学長室では、中長期計画『DAITO VISION 2023 + 10』の策定に向けた検討を進めています。そのなかで、関西学院大学の中長期計画『Kwansei Grand Challenge 2039』での取り組みを参考にしています。このたび、関西学院大学の村田学長に門脇学長と学長室員が、中長期計画の策定や実施・大学教育改革についてお話を伺いました。

1 大学のトップとして実行したこと、心がけたことについて伺います。

学長に就任して最初に行ったことは透明性と公開性を確保することです。具体的には理事会での議案と資料を大学評議会メンバーに公開し、他方大学評議会での議案と資料を理事会メンバーに公開しました。また、主要会議体のトップは全て学長が務めるようにし、これにより全ての情報が学長に集中するようになりました。これらの結果として、部局ごとの判断にゆだねる形ではなく、大学としての統一的意思決定ができるようになりました。

2 「Kwansei Grand Challenge 2039」立案過程について教えてください。

未来のことを考える総合企画部を立ち上げ、現在のことに向き合う学長室と同じ部屋に配置しました。このことによって、時間軸に沿った活発な議論が生まれ、より実効性のある計画ができたと考えています。また、未来予測からビジョン設定を行いました。長期戦略の主たる目標としての「質の高い就労」は、「ビジネスパーソンの輩出」という関西学院大学の伝統から紡ぎ出した言葉です。

各部局との丁寧な論議を重ねることにより、実現性の高い計画を立案できたと考えています。

3 貴学での特筆すべき取り組みがありましたら教えてください。

「学生の質保証」を重要視しながら教育活動に取り組んでいます。特に、キャンパスで学生と教員が顔を突き合わせて教育していくことに力点を置いています。また、「学生の質保証」は、良い就職先を確保するための絶対条件になっていますので、e-Portfolio等を活用しています。

「ダブルチャレンジ制度」として、学部や専攻での学び（ホームチャレンジ）に加えて、もうひとつの学び（アウェイチャレンジ）に挑戦する制度を設けました。

アウェイチャレンジは、国を越えて世界を知る「インターナショナルプログラム」、所属学部以外の他分野を学ぶ「副専攻プログラム」、実社会を学ぶ「ハンズオン・ラーニング・プログラム」の3つで構成されています。これらの学びは、今後ますます激化すると予測されるグローバルな競争社会を生き抜くために欠かせない「主体性」「タフネス」「多様性への理解」「チャレンジ精神」などを育むことを目的としています。

4 教養教育については、その充実に向けて各大学で創意工夫がなされていますが、貴学ではどのような改善改革に向けた取り組みをされていますか。

現在、基盤教科目の再整備に向けて検討しています。また、語学教育に関しては、言語教育研究センターが語学教育を担っており、習熟度別クラスの上位層と下位層は言語教育研究センター、中位層は各学部が担当しています。

話題はこれ以外にも多岐にわたり、多くの時間を割いていただきました。この場をお借りしまして、関西学院大学の村田学長をはじめ関係者の皆様方に深くお礼を申し上げます。

(学長室員 高塚弥)